

9. 湯来冠山山域

湯来冠山は 1000m を超える高さを持ち、西中国山地の一部となっているが、地味な山である。山域の多くがうす暗い杉・ヒノキの植林帯で、ブナなどの明るい自然林は冠山頂北側、塩石谷源頭、日入谷冠周辺に少し残るのみである。昔は谷奥にまで集落があったが、現在は失われている。冠山を巡る谷としては、東南側に、日入谷(ひのいたに)集落からの登山道のあるクス谷本谷があるが、杉林の中の荒れた枯れ谷で遡行価値はない。クス谷の支流は、シオイシ谷がゴルジュと滝の続く良い谷である。また、善福寺裏の日入谷川は短い谷だが、ゴルジュ内に5連の大滝をかけている。南側のオオヤマジ谷は、出会いと中流部に大滝をかけ、そのどれもが快適に登ることができる。昔は、中程に集落があったことが、残った石垣からわかるが、今は道も失われている。また、コウノミ谷は、出会い付近に明神滝と呼ばれる三つの大滝が有名であるが、奥は平凡で林道が延び、コウノミ越えのジョウレンヤシキ谷付近も、最近さらに林道が尾根治いに延長されている。北側の打尾谷では、支流のミズヨコロ谷が冠山北側のブナ林に詰め上げているが、荒れたガレの谷であり、遡行価値はない。打尾谷上流の色梨谷の支流のサリヤマ谷は、大滝は少ないが美しいナメの続く谷である。西側の栗谷郷川は、水内川との出会いに滝があり、上流にはイヨキリ滝もあるが、谷沿いの色梨林道が熊押峠を越えて打尾谷にまで延びている。なお、桑原良敏「西中国山地」では、本谷はオリオ谷となっており、クリヤゴウ谷は栗谷郷のあった支流の谷名とされている。小室井山より流下するオリオ谷本谷は、核心部は短いが上流部のブナ林が美しい。コウノミ谷、オリオ谷は広島山稜会の登行記録がある。同じく、小室井山を源流とする加下川(「西中国山地」では大聖寺川)は上を国道 488 号が通るが、加下峡とよばれる渓谷は近年シャワークライムで人気がある。青笹山から流れ下る水内川支流の岩井谷は大龍頭が知られており、遡行記録も多い秀溪である。

湯来冠山 大山地谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4787829.html>

日程 2022年10月14日(金) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号線の大仙寺橋を過ぎたカーブミラーのある路肩に駐車(1台)。付近は1車線しかないが、その先の祠のあるカーブ、および橋の手前の離合場所にも駐車は可能。または、クス谷登山口に駐車。大仙寺橋の西詰めから入渓

コースタイム 日帰り 山行 4時間56分 休憩 14分 合計 5時間10分

S 大仙寺橋 09:4 112:10 奥二俣 12:15 12:52 塩石山 13:11 湯来冠山 13:20 13:27 内尾谷集落展望場所 13:41 稜線尾根取り付き付近(690m)14:10 湯来冠山登山道沿いの祠(410m)14:20 湯来冠山登山口(楠谷調整池)14:51 大仙寺橋 G

コース状況/危険箇所等 下山に用いた楠谷からの一般道は、笹に覆われている部分もあるが、赤テープも多く、注意すれば問題ない。

大山地の滝は「湯来滝めぐり」*でも紹介されている滝で、国道(酷道)488号からもその一部が見えるが、全部は登らないと見えない。滝は3段で構成され、黒い岩と白い流れのコントラストが美しい滝である。また、大山地谷は、桑原良敏「西中国山地」(昭和57年)の湯来冠山の登路の紹介で、「オオヤマジ谷には、谷の入口付近と中流部に滝があるので入口の大仙寺橋より溪をつめるのもよからう。カミオオハラ谷の分岐を右にとってオモ谷に入り、奥の杉林の中で左折すると<コウノミ越>の鞍部に出る。

この鞍部でコウノミ谷林道からジョウレンヤシキ谷を登ってくる径と一緒に。」との記述がある。下流部は大山地の滝を越えると、ゴーロが続き、昔の石垣等も残るが、中流部の連瀑帯はかなり迫力のあるものであり、すべて直登できて楽しい。この谷は谷幅が結構広いため、ゴルジュや淵は少ないが、懸崖や大きな岩盤を流れ落ちる滝は見事である。ただ、湯来冠山の南面は一面植林で、大山地谷も水際まで植林され、溪畔林がほとんどないため、暗い印象は否めないのが残念である。北面はブナなどの自然林が残っており、明るく癒されるので、一度訪れてみたいものだ。なお、コウノミ越の西側には尾根近くまで新しい林道が延長されて北に延びており、「西中国山地」の記述とは違って、殺伐としてしまっている。(写真は大山地の滝の上段8m滝と中流部連瀑帯の20m滝)

☞大山地の滝の上段の8mは、右より取り付き、下のバンドを伝って水流をまたぎ、左側を落口へ上がる。ホールドはしっかりしているが、高度感がある。

☞中流部の50m連瀑帯最後の20mは左の乾いた部分を登る。

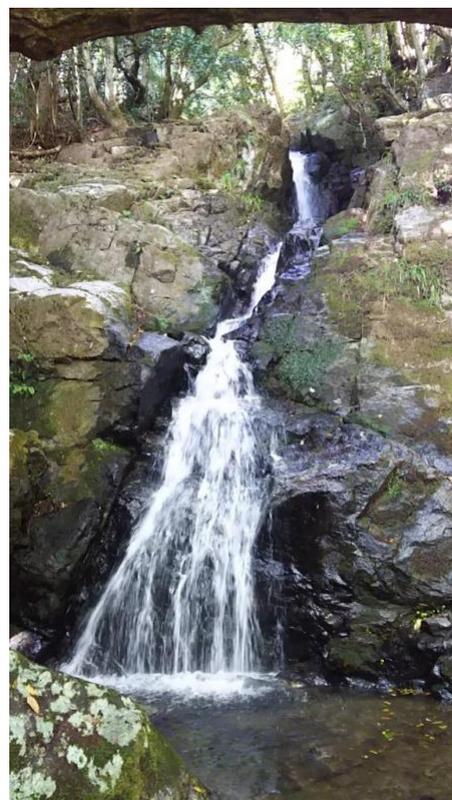
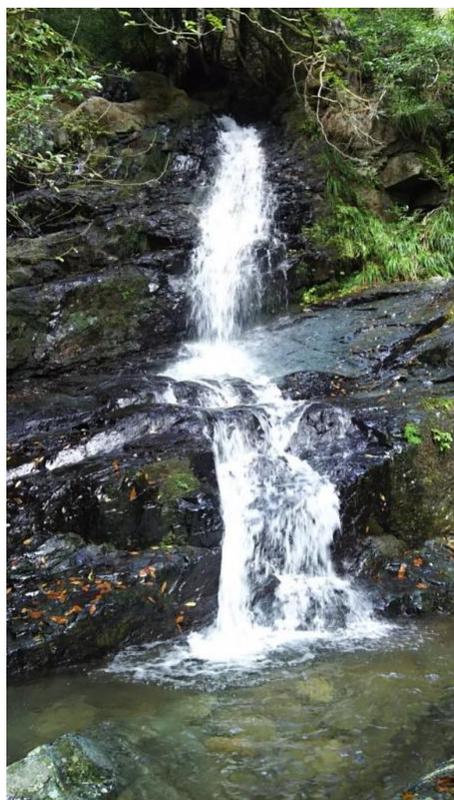
* http://www.hint.or.jp/~yuki/hanro/yuki_taki/kamiminochi/kamiminochi.htm#

(追記)芸藩通志佐伯郡多田村の絵図**には、大山地谷の中流に大山池及び左岸に白井田原のふたつの平地が描かれ志井からの道があり、石垣はこれらの名残と思われる。また、クス谷の祠は河内社と記されている。

** <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/3/0/30034789.jpg>

明治21年の地形図***では、クス谷及びオオヤマジ谷の奥に民家があったことがわかる。「リュックかついで 広島山歩き」1980年刊でも、クス谷の「植林された杉の木立に入り、小さな谷を渡るとあたりが急に開け、民家と田んぼに出る。少し行くと竹林から再びしんかんとした杉の木立となって」と書かれているが.....変わりようは激しい。

*** <https://purl.stanford.edu/ht453ym9138>



湯来冠山 水内川支流 シオイシ谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5445443.html>

日程 2023年05月03日(水) [日帰り]

アクセス 利用交通機関 車・バイク 国道488号線を湯来温泉の先で右の旧道に入り、湯来西小学校を過ぎ、栗谷橋を渡ってすぐ右に折れ、楠谷調整池までのぼり駐車(3台程度)

コースタイム 日帰り 山行 5時間4分 休憩 8分 合計 5時間12分

S 湯来冠山登山口(楠谷調整池)09:14 11:23 塩石谷二俣 12:58 湯来冠山南尾根 13:09 湯来冠山 13:16 13:23 内尾谷集落展望場所 13:41 稜線尾根取り付き付近(690m) 14:09 湯来冠山登山道 沿いの祠(410m) 14:10 14:26 湯来冠山登山口 G

コース状況/危険箇所等 楠谷調整池からの一般登山道は笹がかぶって不明瞭なところもあるが、赤テープもあり、注意すれば迷うことはない。

湯来冠山(1004m)は、南麓の日入谷(ひのいたに)、志井等の集落では塩石山と呼ぶ。桑原良敏「西中国山地」によれば、「シオイシ谷はこの山より東へ流れている谷の呼称であることを考えれば、この山名は穏当な所であろう、また、一部ではシロイシと転訛して呼ばれている」とある。登山道のある楠(クス)谷は、その昔は集落があり、今も石垣や祠が残るが、谷幅の広いゴースの荒れた谷なので、その枝谷であるシオイシ谷も遡行を躊躇していたのだが、地図を良く読めば、流域(集水域)も広く、むしろ湯来冠山に直接突き上げるシオイシ谷が本谷といえそうである。花崗岩の谷なので、シロイシの呼称が妥当のように思える。地形図上では、最初の広い河原から谷が西に曲がると、屈曲部や傾斜の強い部分が何か所かあるではないか。実際に遡行してみると、予想以上に美しい大滝やゴルジュの続く谷で驚いた。最上流まで滝が続き、飽きることがない。これは、見つけものだった。クス谷の様子から植林帯の中の倒木の多い暗い流れを予想していたが、良い意味で裏切られ、中流以上はイタヤカエデやトチ、ミズナラなどの新緑が美しい自然林のなかの流れが続いた。良い谷だった。最後は、藪漕ぎもなく、もう十分に満足して4度めの冠山の山頂を踏んだ。(写真は美しい15滝と上流部3段20m滝)

☞美しい15m直瀑は、直登は不可能だが、幸いにも滝右の岩壁の斜上するバンドをたどって落ち口まで小さく巻くことができた。バンドにあがる一步が難しい。

☞絶壁を穿って落ちる3段20m滝は左岸の草付きの崖から巻いた。



湯来冠山 水内川支流 コヤリ谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5466060.html>

日程 2023年05月05日(金) [日帰り]

アクセス 利用交通機関 車・バイク 国道488号線を湯来温泉の先で右の旧道に入り、湯来西小学校を過ぎ、栗谷橋を渡ってすぐ右に折れ、楠谷調整池までのぼり駐車(3台程度)

コースタイム 日帰り 山行 4時間38分 休憩 10分 合計 4時間48分

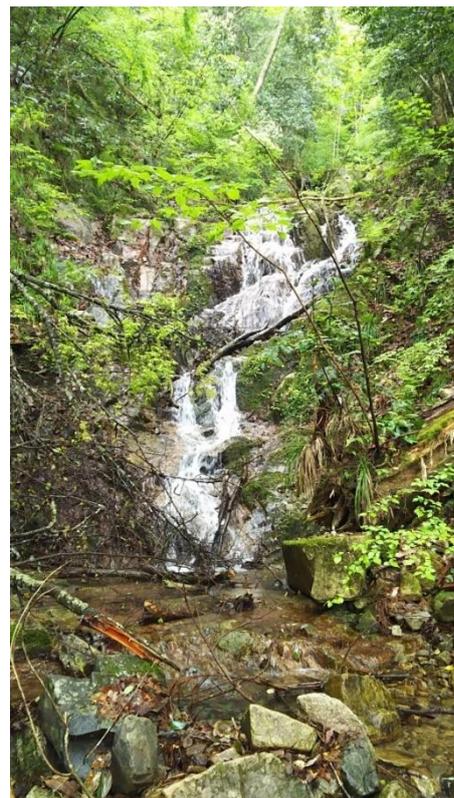
S 湯来冠山登山口(楠谷調整池)10:02 12:50 塩石山～日入谷冠の尾根 13:00 14:50 楠谷調整池
G

コース状況／危険箇所等 塩石山～日入谷冠間の尾根道には植林作業の赤テープあり。途中で920mピークの東の枝尾根を善福寺にくだったが、降りた枝尾根は傾斜がきつく、谷の近くでは悪い巻きもあり一般的ではない。

コヤリ谷は、湯来冠山登山道のある楠谷の支流で、シオイシ谷の一本下の小溪流である。コヤリ谷の名称は、桑原良敏「西中国山地」を参考にした。コヤリ谷は流域面積も小さく、ほぼまっすぐに塩石山に突き上げていて変化がないが、地形図でみると中流部に谷が狭くなっている部分があり、ここにもしかしたらゴルジュがあるかもと、(隣のシオイシ谷が良い谷であったので、)期待して入渓した。期待は見事に裏切られ、中流部の7m滝を越えたら、突然伏流となり、谷幅は狭いものの溝といった感じの植林帯の中の倒木で荒れたゴーロの谷が延々と続いた。ゴルジュは幻に終わった。地図読みは、難しい。塩石山の南尾根を下り、920mピークから東向きに、日入谷の善福寺の裏に降りた。この尾根は急で、自然林から植林となったが、踏み跡はなく、谷に近い部分では露岩が多く悪い巻きを強いられた。(写真は中流部の8m滝)

☞ 8mは左より巻いた。

☞ 3m小滝の奥の7m滝は左から巻いたが、崖が立っており、結構な高巻きになった。



湯来冠山 水内川支流 日入谷川 お寺の裏山に？五連の滝！

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5485319.html>

日程 2023年05月11日(木) [日帰り]

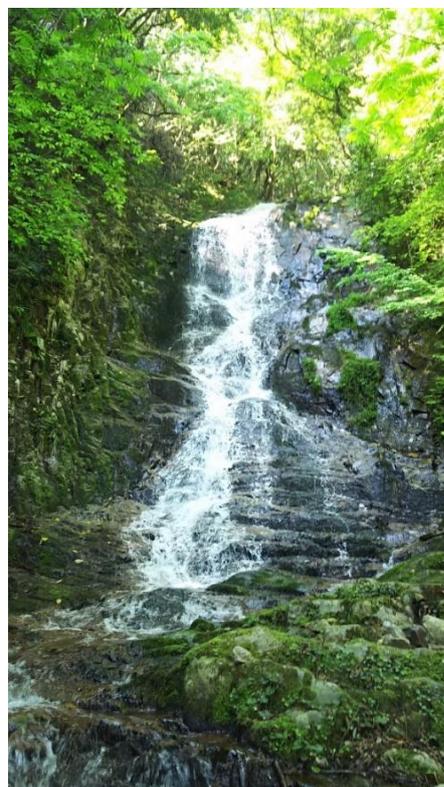
アクセス利用交通機関 車・バイク 県道 488 号線を湯来温泉を過ぎて進み、日入谷集落の善福寺参拝者用駐車場に駐車(石塁の見学と山登りのためと了承を取る)。善福寺裏の石塁の後ろから谷の右岸に延びる踏み跡があり、堰堤を3つ越えてから入渓。

コースタイム 日帰り 山行 4時間46分 休憩 10分 合計 4時間56分

S 善福寺裏 08:51 09:59 日入谷川二俣 10:17 奥二俣 11:50 塩石山南稜線 12:00 12:15 日入谷冠 13:47 善福寺 G

コース状況／危険箇所等 塩石山から日入谷冠までの稜線は、はじめは植林帯の中にはっきりした道があるが、日入谷冠へ近づくと自然林となって不明瞭になる。日入谷冠から日入谷集落への踏み跡は見つけられず、急な傾斜の尾根下りとなる。尾根を選ばないと、露岩が多く、巻きで行き詰るだろう。

湯来日入谷(ひのいたに)集落にある浄土真宗本願寺派日谷山(にっこくさん)善福寺は山側にある石塁*で知られている。この石塁は、江戸時代に北を流れる谷川の土石流から寺を守るために、門徒により建設されたもので、日入谷の長城と呼ばれるそうだ。この石塁の向こう、お寺の裏山にすばらしい滝が隠されているなど、誰が想像できるだろうか。地形図で見ても、流程は短く、谷幅も狭いようにはない。しかし、裏山の頂上にあたる日入谷冠山(838m)は、国道488号からも見えるように、頂上付近が冠をかぶったような急峻な山容で露岩も多い。実は、湯来冠山のクス谷支流コヤリ谷を遡行後、冠山東南尾根からの下山時に、ルートを失敗して日入谷川の絶壁を巻いて降りることになり、その時に大滝を見たのである。コヤリ谷自体は遡行価値のない谷だったが、この発見は収穫であり、今回の探索遡行となった。日入谷冠山が急峻なだけあって、日入谷川も急な流れで、入渓してすぐにゴルジュの核心部となり、5つの大滝を連続してかけていた。一つは水流が激しいため巻いたが、他はほぼ直登ができたのもよい。高巻くと、側壁が高いため、かえって悪いと思われる。奥の二俣からは、急な小谷となって冠山東南尾根に突き上げていた。冠山東南尾根の末端にあたる日入谷冠山からの下山路は手ごわかった。細く露岩の多い東尾根を避け、いろいろ迷って、最後は南東尾根の植林帯のなかに踏み跡を見つけたが、もっと良いルートがあったと思われる。日入谷川の名前は、橋の銘板より取ったが、石塁の説明文では、蛇ノ谷川となっている。ならば、五連の滝は蛇ノ滝と呼びたい。また、桑原良敏「西中国山地」では、オオヒウラ谷となっており、塩石山の東南尾根の836メートル独標峰付近を<日入谷冠>と呼んでいるが、これは志井、日入谷の住人にしか通じない、とある。(写真は12m直瀑)



☞12m直瀑はシャワークライムで登れそうだが、水流が強くずぶ濡れになりそうなので、右のルンゼより多少悪い巻きで、落ち口へ出る。

*http://www.ccba.or.jp/archives/pdf/h04.nikkokusan_sekirui.pdf

湯来冠山 水内川支流 コウノミ谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5415639.html>

日程 2023年04月28日(金) [日帰り]

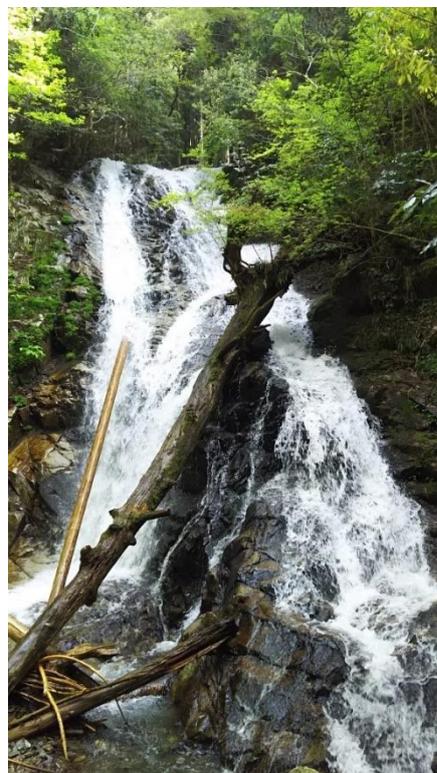
アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号線を湯来本多田の分岐で右に入り、林道大畑郷ノ実線の入口を過ぎ、谷川橋手前の路肩が広がっている部分に駐車(2台程度)。この間の国道488号線は林道かと思うような荒れかたで、中型車の幅ぎりぎりの1車線であり、対向車が来たら完全にアウト。林道を上がり、最初の橋の西詰から入渓。

コースタイム 日帰り 山行 5時間11分 休憩 16分 合計 5時間27分

S 谷川橋 09:23 09:49 明神下の滝 10:23 明神上の滝 落ち口 12:19 ジョウレン屋敷谷の林道 12:29 13:11 湯来冠山 13:17 14:50 谷川橋 G

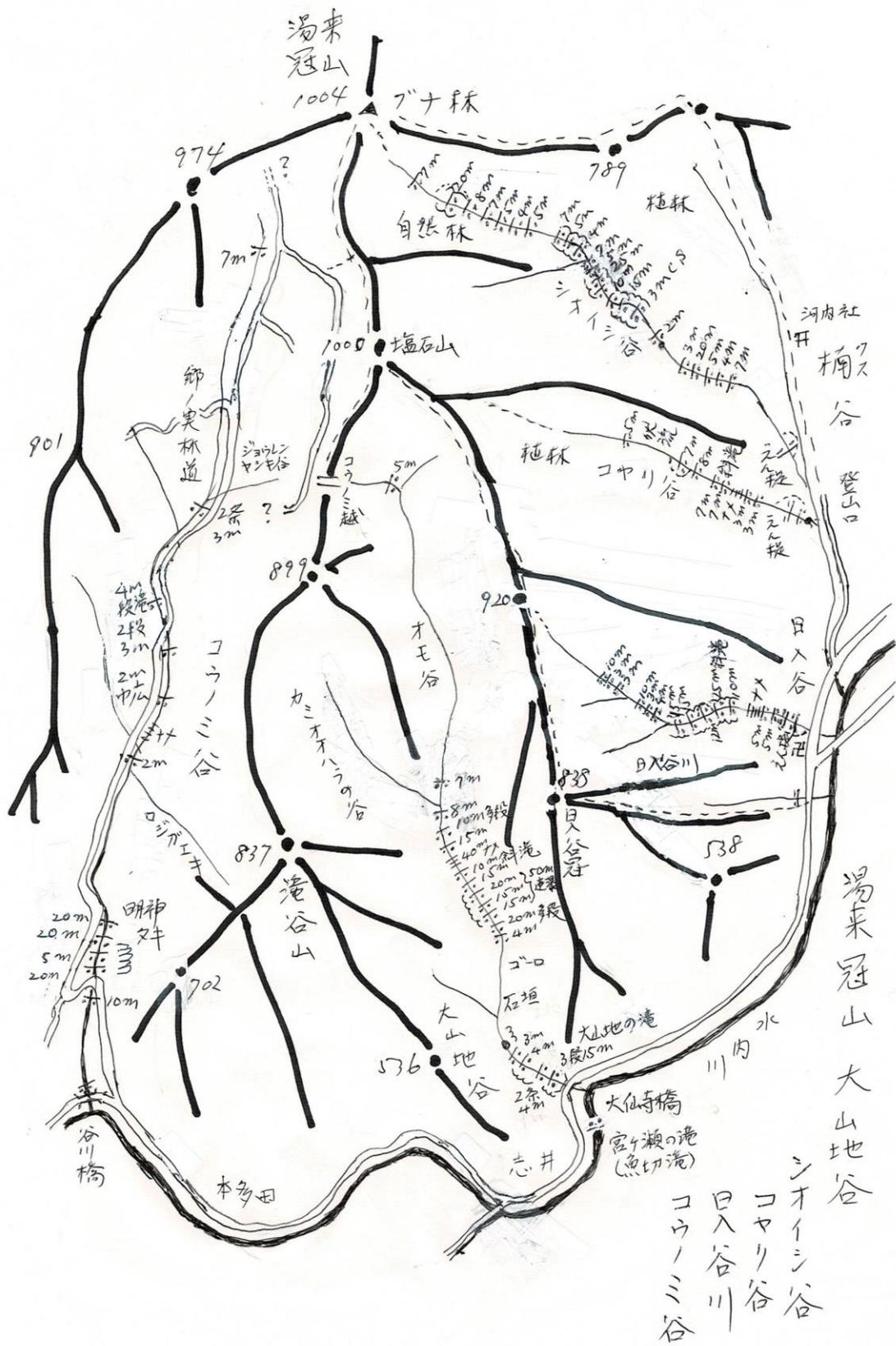
コース状況/危険箇所等 明神下、中、上の滝は、それぞれ林道大畑郷ノ実線より滝下へ降りる踏み跡がある。林道は、荒れてはいるが、冠山の直下まで延びており、使用が可能。分岐が多いので方向に注意。北西方向の林道は山腹を巻いて栗屋郷川ワラビサデの谷の色梨林道につながっているものと推測される。冠山南尾根には、踏み跡があるが、下山時は傾斜の緩い笹原部分で道を失いやすいので、尾根を忠実にたどること。西側の林道に降りて、道なりにくだると水内川沿いの国道488号線にでる。

湯来冠山より南に流れ下る水内川支流のコウノミ谷は、湯来滝めぐり*でも紹介されている明神滝で知られている。それによれば、「昔、滝の上流にこうのみと言う里がありました。そこに巖島明神様が滞在されたので明神滝と呼ぶようになりました。明神滝の3段に積んだ自然石、二丈(約6m)ばかりの石燈籠に神秘の常夜灯がそのときから作られ、消えずの聖火として幾千年も光り輝いていたと言う伝説がある滝です。」とある。また、桑原良敏「西中国山地」によれば、明神のタキは三段に積み重なっている懸崖(タキ)の呼称で会って滝の名ではない、林道終点の付近をタガタ(田形)と呼び、昔人が住んでいたことがわかる、とある。コウノミ谷は、明神滝より上はおおむね平坦な流れが続き、谷幅も広いので上流に集落があったのもうなづける。湯来周辺は、昔は谷奥にまで少しの平地でも見つけて集落があったようだが、どんな暮らしだったのだろう。コウノミ谷は、林道大畑郷ノ実線が並走し、沢登りの興味としては明神の滝付近のみである。明神滝3段はそれぞれ20mほどで、水量も多く、懸崖に囲まれた薄暗い中を落ちる滝の白さに迫力があり、巖島明神がおわしそうな雰囲気だ。中流部も、大きな滝はないものの、落ち込みの多い良い溪相で、杉の植林帯にしては明るく、ときおり近づく林道を無視すれば、森閑とした沢歩きを楽しむことができた。林道は、地図上の終点よりもさらに冠山直下まで延びており、これを利用して冠山に3度目の登頂を果たした。(写真は明神下の滝)



☞ 明神下、中、上の滝は、いずれも左より巻ける。

*http://www.hint.or.jp/~yuki/hanro/yuki_taki/kamiminochi/kamiminochi.htm#



湯来冠山 水横路谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4815411.html>

日程 2022年10月21日(金) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 県道 41 号線下打尾谷バス停付近の川べりの路肩に駐車(3 台)。竜丸橋を渡り、坂道を登って左にいくと、民家が途切れ、ミズヨコロ谷を横切る手前で左岸をたどり、堰堤を右の石段から越えて入渓。

コースタイム 日帰り 山行 4 時間 17 分 休憩 19 分 合計 4 時間 36 分

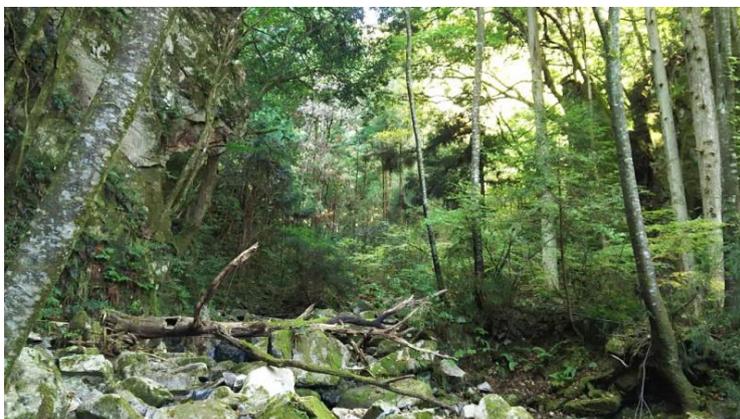
S 下打尾谷バス停 09:47 10:03 堰堤 10:08 10:43 水横路谷二俣 12:36 内尾谷集落展望場所 12:41 12:54 湯来冠山 13:01 13:07 内尾谷集落展望場所 13:09 13:24 稜線尾根取り付き付近 (690m) 13:43 水横路谷横断点 14:23 下打尾谷バス停 G

コース状況／危険箇所等 下山につかた楠谷越から打尾谷への道は、水横路谷に降りるまで急かつ不明瞭。道を間違えたのかもしれないが、ピンクテープもなし。谷に降りると左岸に踏み跡があるが荒れている。特に岩峰を巻く部分は悪い

前回、湯来冠山に登頂し、北面の斜面のブナ、クヌギ等の林が素晴らしかったので、打尾谷から水横路谷の左谷を詰めてみた。源頭の雰囲気から、癒し系の谷を予想したのだが、最初は岩峰やきれいなナメが期待させたが、大きな滝は無く、中流はゴーロ、上流は荒れたガレの谷で、行く人はいないと思うが、遡行価値はない谷である。下流は杉の植林で、中流になると右岸に自然林が出てくる。源頭は、上からみたとおり、ブナ、クヌギの美しい自然林になり、しばし癒されるが、急登の笹藪漕ぎを強いられる。左谷の荒れ具合から、右谷の下降は止めて、クス谷越から打尾谷に降りた。ミズヨコロ谷の左岸をたどり、クス谷越へ上る登路は、桑原良敏「西中国山地」(昭和 57 年)や加藤武三「広島近郊の山と谷 緑の回廊」(昭和 48 年)に紹介があるが、今回、クス谷越からの下降路は、道を間違えたのかもしれないが、ものすごい急坂で踏み跡なく、ピンクテープも見当たらなかった。水横路谷を横断してからは、左岸に踏み跡が残っていたが、荒れており、岩峰を高巻く部分など、悪い部分も多かったが、最後は、堰堤の上に出た。上りにとる場合は、クス谷越への取り付きがわからないと思う。なお、現在は、打尾谷へは、水横路谷の右岸尾根を辿るルート*があるようだ。(写真は谷入口付近の両門の岩峰)

* <http://anoyama-konoyama.net/130426.html>

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-105069.html>



筒賀鷹ノ巣山 色梨川オシガ谷～サリヤマ谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5672818.html>

日程 2023年07月02日(日) [日帰り]

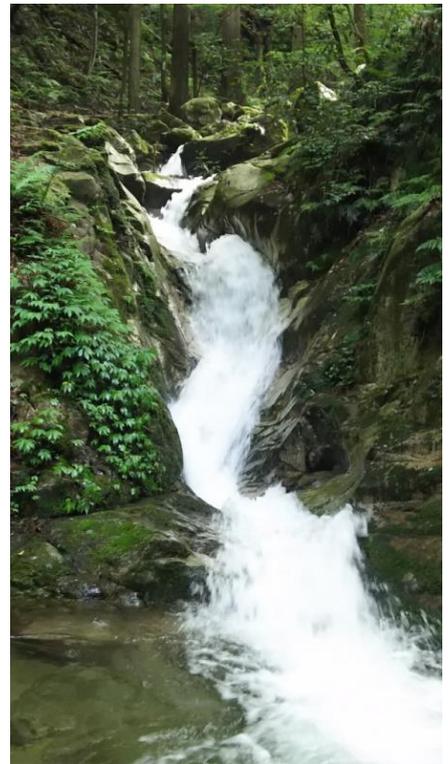
アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号から湯来温泉で県道41号に入り、色梨橋手前で右の旧道に入り、色梨林道起点付近に駐車。色梨林道を西に進み、おしがたに橋から入溪。

コースタイム 日帰り 山行 6時間25分 休憩 47分 合計 7時間12分

S 色梨林道起点 09:15 09:19 おしが谷出合 09:29 10:59 おしが谷二俣 11:05 13:05 鷹ノ巣山 13:20 14:37 サリヤマ谷二俣 14:47 16:09 サリヤマ谷出合 16:15 16:27 色梨林道起点 G

コース状況／危険箇所等 鷹ノ巣山付近には一般登山道はないが、テープの目印はある。笹藪が濃い部分もあり。

その昔、湯来の打尾谷から上筒賀に抜ける道は二つあり、ひとつが猪股越で、もう一つが猿山越である。猪股越は現在は県道41号線になっているが、猿山越の道は失われている。打尾谷川の上流を色梨川といい、色梨林道が熊押峠を越えて栗屋郷川まで延びている。色梨川の左岸支流にサリヤマ谷があり、左俣が猿山越に続いている。猿山越の筒賀側は、奥の原谷支流のサルヤマ谷である。また、サリヤマ谷の源頭の980mピークは地形図では無名であるが、鷹ノ巣山といい、地形図の鷹ノ巣山989mは柘山が正しい呼び名のようなのである*。猿山越は鷹ノ巣山とその南の936mピークの鞍部とされる。サリヤマ谷沿いに峠道があったのであれば、それほど険しい谷とは思えない。今回サリヤマ谷のひとつ下流の、オシガ谷を逆行し、鷹ノ巣山を越えてサリヤマ谷の右俣を下降してみた。オシガ谷、サリヤマ谷とも、比較的傾斜が緩く、花崗岩の美しいナメが続く谷であったが、惜しむらくは長いわりに大滝が少ないことである。それでも、サリヤマ谷の7mヒョングリ滝は滝つぼも大きく見事であった。両谷とも、下部は植林帯だが、源頭付近は自然林が美しい。鷹ノ巣山頂上は展望なく、羽虫が多かったが、虫除けネットが役に立った。なお、サリヤマ谷の名称は、桑原良敏「西中国山地」から、オシガ谷の名称は色梨林道にかかる橋の銘板から取った。「西中国山地」によれば、鷹ノ巣山を越えた反対側の奥の原谷にもオシガ谷がある。偶然だろうか。(写真はサリヤマ谷の7mヒョングリ滝)



☞ オシガ谷の8m滝は右の草付きから巻く。サリヤマ谷の7m滝は右岸のバンドから下降できる。

*https://yamaaruki.sakura.ne.jp/06/060102-sumamo.htm?_sm_au_=i2sPf3rfHs22FSQHML8tvK34L00HF

「現在筒賀村で鷹の巣山と呼んでいる山はタカノス谷の水源にある980メートルの峰である。その近くにある989.0メートルの峰の点称は「鷹の巣」であるが、現在この山は馬越、坂原ではともに柘山と呼んでいる」(「西中国山地」桑原良敏)。

猿山越は猿の居る峠でなく、「猿でないと思えない急峻な場所」(「西中国山地」という)。

小室井山 栗屋郷川 オリオ谷本谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5684003.html>

日程 2023年07月06日(木) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号から、もみのき森林公園へ。駐車場は広い。公園センターから東側の小室井山登山道をたどり、1029m ピークを越えて、東に廃林道を下り、シロイン谷を下降して、色梨林道のオリオ谷出合いの橋に至る。

コースタイム 日帰り 山行 5時間57分 休憩 17分 合計 6時間14分

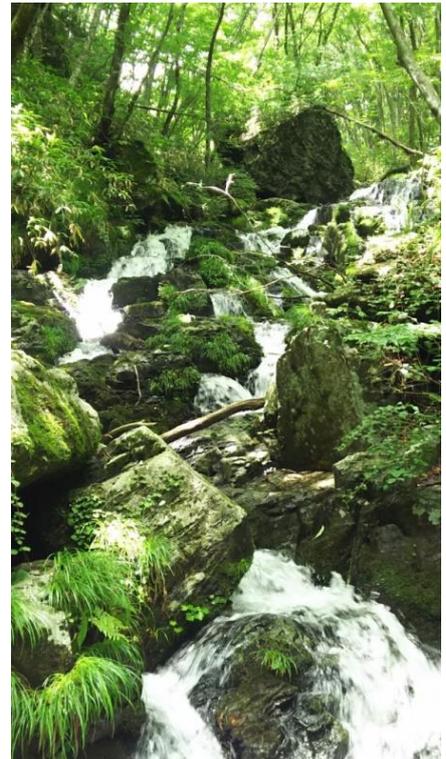
S もみのき森林公園センター09:3409:53 高崎王冠山分岐 10:02 高崎王冠山 10:50P1029m (ピーク)11:21 シロイン谷源頭 11:3112:14 色梨林道 12:2013:14 オリオ谷本谷二俣 14:07 奥二俣 14:40 登山道 14:45 小室井山 14:4615:48 もみのき森林公園センタ G

コース状況／危険箇所等 廃林道は、灌木や笹がしげり荒れているが、道は残っている。

その他周辺情報 もみのき森林公園もみのき荘。

小室井山東面のオリオ谷本谷は、湯来町本多田の栗屋郷川の最上流に位置し、広島市と廿日市市の市境になっている。遡行は打尾谷川との分水嶺にある熊押峠の南側の境橋が起点となる。栗屋郷川から

打尾谷川に色梨林道が抜けているが、一般車の通行は困難であり、アプローチの遠さが問題になる。今回は、長い林道歩きを嫌って、もみのき森林公園から廃林道を辿って、栗屋郷川支流のシロイン谷を下り、オリオ谷本谷の出合いを目指した。シロイン谷は何もない谷だったが、廃林道が荒れており、オリオ谷出合いまで結局2時間近くかかってしまった。栗屋郷川は昭和30年代半ばに広島山稜会により踏査され、オリオ谷本谷は、桑原良敏「西中国山地」の小室井山の章で広葉樹林下の快的なコースとして紹介されている。最近では苅尾臥竜さんの灰郷スマモ山～奥の原山～オリオ谷下降の記録がある*。苦労してたどり着いた、オリオ谷本谷は美しい谷だった。序曲のナメ歩きに続く核心部は短い、美しく、登れる滝が多いのも嬉しかった。核心部を抜けると、中盤は穏やかな小川が林の中に続くのも珍しく、エピローグの源頭部には広く美しいブナ林が広がっていた。詰めの笹藪はそれほど濃くなく、最後のひと登りを頑張ると、小室井山への立派な登山道に飛び出した。(写真は15m段滝)



☞ 核心部最後の4mは左からへつって水流際を登れる。大きなホールドがあり、見た目より簡単。

*<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-253790.html>

なお、桑原良敏「西中国山地」によれば、熊押峠から北を打尾谷、南を折尾谷と呼び、栗屋郷谷は、栗屋郷の集落があった枝谷を指すとされている。また、オリオ谷本谷の核心部を抜けた左岸の平坦地は打尾谷ではスマモと呼ばれているとある。また現在、もみのき森林公園付近で伐採作業中で一部の登山道が通行止めである(平日のみ?)。

青笹山 水内川支流 岩井谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5722829.html>

日程 2023年07月17日(月) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 国道488号線を湯来から筒賀方面に向かい、雲出トンネルを抜けて、水内川にかかる熊ヶ杉橋から左手に林道に入り、顕彰碑の前のスペースに駐車(2台ほど)。雲出トンネルから熊ヶ杉橋までの国道488号は一車線の崖沿いの道で、離合困難なので運転には注意が必要。林道を少し奥に進むと、岩井の滝の案内板があり、水内川本流に降りて上流に少し歩くと、右岸より岩井谷が合流する。

コースタイム 日帰り 山行 3時間54分 休憩 28分 合計 4時間22分

S 熊ヶ杉橋 09:20 09:26 岩井谷出合 10:11 大龍頭 10:30 10:48 二俣 12:46 林道コンクリ橋(脱溪点) 12:55 13:42 熊ヶ杉橋 G

コース状況／危険箇所等 下山に使った林道所山青笹線は、道幅も広く手入れされており、歩きやすい。その他周辺情報 湯来温泉。

西中国山地の東南端に位置する青笹山を水源とする水内川支流の岩井谷は、大龍頭で知られている*。別名を武者かくしの滝というらしいが、理由は定かでない。前衛の岩壁が滝を隠しているように見えるからだろうか？芸藩通志や芸備諸村瀑布図には記録されていないが、古くから知られていたのだろう。

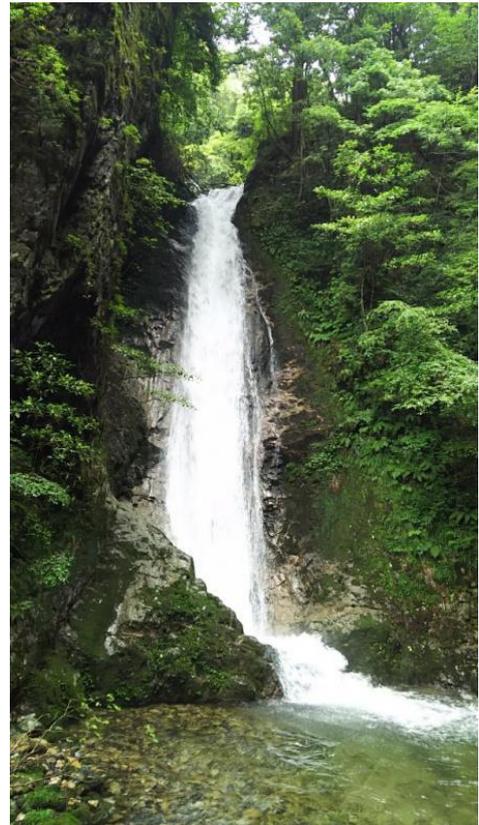
沢登りの記録としては、昭和30年代半ばに広島山稜会により踏査され、桑畑良敏「西中国山地」の板敷山と青笹山の章に遡行図とともに紹介されている。最近では、2021年のkimitaroさんの遡行記録**がある。やはり、良く知られた谷というのは、すばらしいもので、決して長くはない遡行時間の中に、ゴルジュの通過、大滝の高巻き、ヒタヒタのナメ歩き、と沢の要素が詰まっており、溪相や溪畔林も美しく、情感にあふれる良い谷であった。終了点で林道が横切り、南に辿って牛首に出ると青笹山に登れるが、青笹山にこだわらなければ、北に辿って藪漕ぎなしに下山できるのも、暑い日にはうれしい。岩井谷(東山溪谷)は、廿日市市と広島市にまたがる広島県緑地環境保全地域***に指定されているが、国道488号の東山バイパスが雲出トンネルの先から延長されると、岩井谷も影響を受けそうなのは残念だ。(写真は、大龍頭 20m)

☞ 大龍頭の高巻きは、過去の記録では滝右の草付きの不安定な登りとなっているが、今回は安定した岩場だった。草付きが剥がれて登りやすくなったと考えられる。

*<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yukinishi-k/takimeguri/index.html>

**<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3388340.html>

***<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/j-j1-hozentiiki-hozen-2-15.html>



青笹山
水内川支流 岩井谷

